

## 滝上町まちづくりビジョン（案）に対する意見と町の考え方

募集期間 平成 28 年 9 月 2 日（金）から平成 28 年 9 月 30 日（金）まで

意見提出者数 2 人

担当課 滝上町まちづくり推進課

No.	意見の内容	町の考え方
1	<p>濁川地区の子どもたちに健全なあそび（タマリ）場を</p> <p>学校が休みの日に、集落センターのロビーで友だち同士遊んでいる事がよくありますが、センターのロビーにおやつや、持ち物を置いたまま家に遊び道具を取りにい行ったり、おやつを出したままだったりしている事があるのを見かけます。</p> <p>利用者がいない場合でも色々と気になりますが、バスを待つ人の利用もあるので、衛生面なども気になります。センターでの利用マナーなどを身につけさせれば良いかとは思いますが、子ども達の遊び場としては不安です。又、狭すぎると思います。裏の芝生の所にも、子ども専用の場を造るとかは出来ないでしょうか。将来を担う子ども達を大切にしてください。</p> <p>最後に一言 大人の遊び場広すぎ（多すぎ）だと思います。</p>	<p>子どもの遊び場の確保は、非常に大切なことであると考えております。</p> <p>滝上町まちづくりビジョン（案）において、水と緑のネットワーク形成の方針を掲げております。町内には、錦仙峡の渓谷や渓谷沿いの遊歩道、虹の橋やリバティー橋等の人道橋等の景観資源、芝ざくら滝上公園、渓谷公園などの観光資源、鉄道跡地を利用した散策路や水遊びができる河川公園等の資源が存在します。これらを踏まえた、子どもからお年寄りまで様々な年代の居住者が安全に楽しめる公園や運動広場などの環境整備の検討を行い、質の高い教育環境の提供と充実した子育て支援環境を提供してまいりたいと考えております。</p>
2	<p>バイオマスなどのエネルギーについて、絞別のようなバイオマス発電所は、つくらないでください。大型の太陽光発電の設置も賛成できません。今、あるものをぜひとも生かしてください。例えば、滝上町は、川がすばらしいです。今、小水力発電が充実しつつあることをご存知でしょうか。どこの地域か忘れて</p>	<p>バイオマスエネルギーについては、公共施設等の再配置とあわせて木質バイオマス有効利用の促進について調査・検討を行ってまいります。なお、本町の方針としては、大規模な発電所をつくり売電することは想定していません。</p>

しまいました(下記)、自治体をあげて、地域エネルギーとして水力発電をしています。虹の橋でも発電をしていると思いますが、さてどのくらいの発電ですか？私としては、電気自由化で選ぶなら、安心できるものを選びたい。だったら、滝上町に出資し、毎月の電気代を小水力発電に契約できたらいいなと思います。メガソーラーは、現在の周波数に乗せることができず、結局使われているのは、微量です。木を倒してまで進めるというやり方が納得できません。もし、ソーラーを進めるのなら、各家庭で独立して動くものをお勧めします。災害にも強い味方です。メガソーラーに税金を使うなら、各家庭での使用電力分の一分を独立型のソーラーに補助をした方が、電力は確実に届き、安価ではないかと思います。

(以下意見提出者提供資料)

小型水力発電

<http://www.itmedia.co.jp/smartjapan/spv/1609/08/news044.html>

水道管の高低差で発電 導入なら3万世帯分の電力に

全国の水道施設で、水道管の高低差を利用して発電する「小水力発電」を導入した場合、3万世帯余りの電力を賄う能力があることが環境省などの調査でわかり、環境省は地球温暖化対策に向けて、設備の導入を後押しすることにしています。「小水力発電」は、上下水道の水道管や農業用水の水路などにある数メートル程度の高低差を利用して、流れる水の勢いで水車を回し発電するもので、再生可能エネルギーとして地球温暖化対策などへの効果が期待されています。このうち上水道での発電について、環境省は昨年度、厚生労働省と共同で全国1900近くの水道

クリーンエネルギーの利用促進については、太陽光発電の導入促進の検討に留まらず、本町の自然や産業の特色を生かしたエコエネルギー導入の可能性について検討する必要があります。

渚滑川虹の橋の下手にある「滝上芝ざくら」発電所は、0.025万kwの発電量であり、1世帯あたりの平均電力を $100V \times 30A = 3kw$ とすると、約83世帯分の電力を供給しています。中小水力発電事業を切り口とした地域振興策は、全国的にも注目を集めており、本町のクリーンエネルギー導入においても先進地の取組などを参考とさせていただきます。

	<p>事業者を対象に発電設備を導入できないか調査し、このほど結果がまとまりました。それによりますと、小水力発電で一定の発電量が確保できる場所は、全国で274地点あり、出力は合わせておよそ1万9000キロワットに上ることが分かりました。これは、一般家庭3万世帯余りの電力を賄える能力にあたるうえ、水道設備では流れる水の量が変わりにくいため、太陽光や風力に比べて安定した発電が期待できるということです。環境省は、これまでに富山県南砺市の水道施設などで行った実証実験の結果を全国の水道事業者に紹介したり、設置費用の補助金を出したりして、小水力発電の導入を後押しすることにしています。</p>	
3	<p>定住促進で、土地購入の補助をしてもらえたらありがたいです。</p>	<p>現在、土地購入について補助金制度は制定していませんが、「ずっと住まいるたきのうえ」支援事業により、一戸建て住宅の新築、住宅を購入後改修して自己居住した場合に補助を行っています。この補助金では、定住促進宅地分譲地に家を建てると100万円加算されます。</p>